

未来デザイン通信

「いい会社を増やしましょう」を合言葉に資産運用を行っている鎌倉投信株式会社(以下、鎌倉投信)。同社の運用する投資信託「結い2101」は独自の基準で選定した「いい会社」約40社に投資を行っており、その中にはアマタも選ばれています。投資信託「結い2101」は、2013年4月に、格付投資情報センターの選定する『R&Iファン ド大賞2013』において、最優秀ファンド賞(投資信託国内株式部門)を受賞するなど、高い評価を受けています。

今回の未来デザイン通信は、鎌倉投信のファンドマネージャーとして豊富な運用経験をお持ちの新井取締役、「いい会社の条件」と「投資先としてのアマタの魅力」についてお聞きしました。

インタビュー アマタホールディングス株式会社取締役 藤原仁志

■投資をする「いい会社」の基準とは？■

アマタ藤原(以下、藤) 鎌倉投信さんは「いい会社をふやしましょう」を合言葉に運用をされておられますが、「いい会社」の条件とはどのように定義されておられるのでしょうか？

鎌倉投信新井氏(以下、新)

鎌倉投信が運用する投資信託「結い2101」には、投資先の「いい会社」を選定する上で、3つの大きな選定基準があります。「人」、「共生」、そして「匠」です。

まずは「人」、つまり人材を活かせる会社。次に「共



「いい会社」の基準は「人」「共生」「匠」というキーワードに、社会性と利益性のバランスを評価

生」は、循環型社会を創造し、地域雇用を生んだり第1次産業を何とかしてくれる会社。そして「匠」は、日本の技術力やサービスを世界に発信できるような会社です。

鎌倉投信は、これからの企業は、CSR(Corporate Social Responsibility)「企業の社会的責任」からCSV(Creating Shared Value)「共有価値の創造」へ移行していくものと考えています。つまり、企業のボランティア活動を評価する時代から、企業が本業において社会貢献することが評価され、フォーカスされる時代になるといえます。もちろん、当然のことながら企業として利益も非常に重要ですので、利益性と社会性の結びつきも評価させていただいています。

次に、その会社そのものが持続可能かどうか、も重要です。社会的にいい活動をしていても、続かなければ投資先として問題です。ですから会社としての経営力、従業員のモチベーション、そういったものも評価の対象です。

また一方で、会社も人間でできているので、完璧な会社があるわけではありません。完璧ではないけれども「いい会社」を目指そうとしているか。社会に必要とされ、全てのステークホルダーを幸せにしていこうという姿勢があるか。至らない部分について我々は企業に対話を求めますが、それにきちつと関わり、応えてくれるか。そういった点も含めて、私どもは「いい会社」かどうかの評価をさせていただきます。

藤 「CSRからCSVへ」ということは、社会的責任という範囲から、その責任を超えた新しい存在意義を商品やサービスに置き換えて収益化するということですね。しかし経営者の立場から見ると、実際には社会的活動と収益とのバランスが非常に難しいところですね。このバランスの取り方のコツのようなものは、いろんな企業をご覧になって何かありますか？

新 重要なのは利益相反という形にしないということ。つまり収益性と社会性の軸を、同じ方向に保つということですね。それには、共通となるベクトルの軸を明確に持てるか

どうか非常に重要です。そのバランスは会社によっても違いますので「これ」というものは無いですが、悩み苦しんで出された答えが、会社の競争力そのものになっていくと捉えています。

藤 うまくいっている会社とそうではない会社の違いはどういうところでしょうか？

新 うまくいく過程に入っている会社には、失敗を許す文化があるんです。社員から上ってくる要望やアイデアを、実践させて失敗させて、そのうち何か当たると。それを許容しなくなると企業は衰退していきますので、経営者に、社員から上がってくるものをしっかり許容して、失敗させていく度量があるかどうか、すごく重要になってきますね。

藤 そういう意味では、収益だけではなく信念に基づいた社会変革を目指したり、通常民間ではできないような領域に挑戦する会社の経営者は、良くも悪くも、これはこうだ！という思い込みや、作り手側の都合に合わせた事業戦略をたてる傾向があると思うんです。そしてそういう企業ほどトップダウンのワンマン経営になりやすい。そこは上手くコントロールや変遷をしていかないと、以後の事業継続が難しいということでしょうか？ (裏面へ続く)



藤原 仁志
アマタホールディングス株式会社 常務取締役
都市銀行に入行後、教育ビジネス業界へ転身。97年にスウェーデン企業の出資を受け、日本にて環境ビジネスを起業。02年にアマタの理念に共鳴し合流。



新井 和宏
鎌倉投信株式会社 取締役
日信信託銀行、外資系運用会社を経て、2008年に鎌倉投信を創業。「いい会社をふやしましょう」を合言葉に、投資信託「結い2101」の運用責任者として活躍中。

新 企業にはライフステージがありますから、成長していく過程で経営者のリーダーシップ、カリスマ性というのは凄く重要な要素です。ただし、それが企業の発展や持続性の弊害となる事も多いんです。ある程度成長したら、経営者が色んなものを社員や周囲の人たちに委ねていくようにならないといけない。アマタさんは、これまで発展を重ねてきて、そろそろそこに注力すべきレベルになってきたのかなと、我々は思っています。



アマタへの投資理由は、持続可能社会の実現への取り組みから。持続的に事業を継続させることが重要と語る。

■アマタに投資する理由■

藤 御社がアマタホールディングスに投資くださったという理由として、持続可能社会を目指す社会的企業であることが大きいと思いますが、今後、本当の意味での第2創業をどうしていくのかが、期待でもあり課題でもある、ということでしょうか。

新 そうですね。期待を込めて申し上げますと、アマタさんの事業や取り組み内容、そして理想を掲げた経営をされている点で、今の時代に必要な会社だと認識しております。ただ、アマタさんがより社会にとつて持続的に必要とされる会社になるには、当然ながらこれまで会社を牽引してこられた経営者自身が、次にバトンをつないでいかなくてはならない。「いいバトン」を「いい渡し方」で渡していくことをしっかりとやっていただきたいと思いますし、そのために我々も株主としてできることを最大限していきたいと思えます。

藤 ありがとうございます。株主さんということでもいきますと、最近では三方よし、四方よしなど、すべてのステークホルダーが満足を得る施策が企業に求められていると思います。それが理想ではありますが、ステークホルダーの方々のコミュニケーションが実態としては中々難しいところですね。弊社のコミュニケーション施策についてどのようにご覧になられていますか。

新 コミュニケーションの基本は対話ですが、一番重要なことは相手の立場に立つことだと思います。

相手の立場で考え、自分たちが何を答えるべきかを考える。その中でできることをしっかりと伝え、なおかつ自分たちの理念を貫いて、それを言い続けることはすごく大事だと思います。アマタさんは、しっかりと対話が続けながら自ら新たな市場を創造し、立ち位置を明確にしていく過程の中でステークホルダーの方々に共感して選んでいただける会社になりうると、我々は信じています。

藤 私共がやっている事業や会社について、投資のプロフェッショナルとしてのお立場から、新井さんはどういった期待をお持ちなのでしょうか？

新 行なっている事業そのものは難しいかもしれないですが、考えているのはシンプルで、循環型社会を創るということです。それによって、継続していることは素晴らしいと思います。

一方で、そういったことを、目に見える形で表現していくことが大切だと思います。



築80年の古民家を拠点にする鎌倉投信さん。非常にリラックスした雰囲気のおオフィスでした。

ます。例えば東北で取り組まれている事業に関しても、アマタさん自身が考え行動していることを、よりシンプルに分かりやすく伝えることが重要じゃないでしょうか。またアマタの社員の方々は、会社の理念に共感して活動をされていると思います。社員が誇りを持ち、プライドを持って活動をされているその姿を、もっと伝えていってあげれば、色んな方々が共感して、応援してくださる方が増えていくのかなと思っています。

インタビューを終えて

終始にこやかな表情で語る新井氏。難しい言葉は一切使わずに、わかりやすい言葉でゆっくりとした語り口の中に、プロの運用者として、またアマタの株主として、アマタの事を心から応援くださっているということが感じられました。鎌倉投信さんが認めた「いい会社」の名に恥じない、社会とステークホルダー全てに価値を提供できる素晴らしい仕事をやっていこうと、藤原含め取材チーム全員が決意を新たにしました。



鎌倉投信株式会社

神奈川県鎌倉市に拠点を置く、独立系投資会社。「いい会社をふやしましょう」を合言葉に、投資信託「結い2101」を運用。短期的な利益を追求するのではなく、独自の視点で選んだ「いい会社」への長期投資にこだわりを持つ運用姿勢が、受益者（投信の保有者）のみならず、社会から広く注目を集めている。

未来デザイン通信 2013冬

お問い合わせ先 アミタホールディングス株式会社 1戸担当
〒604-0847 京都市中京区烏丸通押小路上ル
秋野々町535番地
TEL: 075-1257-10795
FAX: 075-1255-14527
E-mail: info@amita-net.co.jp